

松下幸之助の7つの習慣

『本のソムリエ』が学んだ松下幸之助の「成功の秘密」

(無料配布版)

読書普及研究所

<http://www.1book-day.com/>

目 次

はじめに	3
習慣 1 熱意を持つ	4
1-1 熱心にやる	4
1-2 なすべきことをなす	5
1-3 命をかける	6
1-4 情熱を持つ	7
習慣 2 人を育てる	8
2-1 言い続ける	8
2-2 叱る	9
2-3 部下を守る	10
習慣 3 自然の理を知る	11
3-1 与える側に立つ	11
3-2 成功するまで続ける	12
3-3 感謝する	13
習慣 4 人を動かす	14
4-1 仕事を任せる	14
4-2 質問する	15

習慣5 使命感を持つ	16
5-1 使命を知る	16
5-2 長期目標を持つ	18
5-3 私心を捨てる	19
習慣6 組織を動かす	20
6-1 現場に学ぶ	20
6-2 衆知を集める	21
6-3 掃除の大切さを知る	22
習慣7 一日一日を大切に	23
7-1 日々、進歩する	23
7-2 反省する	24
松下幸之助の書籍一覧表	25
最後に	26

はじめに

無料メールマガジン「[1分間書評！【一日一冊：人生の智慧】](#)」を発行して丸6年となりました。これまで二千冊以上の本を読んできて良かったと思うのは、なんといっても松下幸之助との出会いです。

松下幸之助といえば、松下電器、パナソニックの創業者であり、すでに故人で会うことはできませんが、その意志は、松下幸之助の著書や松下幸之助と共に働いた人により受け継がれ、今でも松下幸之助の教えを多くの書籍、CDから学ぶことができます。

今も語り継がれる松下幸之助のトピックの数々は、それを読むだけで体に衝撃が走るくらいですから、いわんやその場にいた人たちの驚き、感動は並々ならぬものがあったはずです。

この無料レポートでは、私が無料メールマガジン「[1分間書評！【一日一冊：人生の智慧】](#)」で取り上げた松下幸之助に関する部分を抜粋し、編集しました。特に、私たちでも参考にできそうな松下幸之助の思考の【習慣】、行動の【習慣】を重点的に集めました。

ぜひ、松下幸之助が後世に残したかった「充実した人生を過ごすための習慣」を読み取っていただきたいと思います。

※この無料レポートは、以下のメールマガジンバックナンバーより抜粋しました。

※無料メールマガジン「[1分間書評！【一日一冊：人生の智慧】](#)」
(登録) → <http://www.mag2.com/m/0000094236.htm>

発行部数 42,000 部

『まぐまぐメルマガ大賞 2007』	ニュース・情報部門	第2位
『まぐまぐメルマガ大賞 2006』	ビジネス・キャリア部門	第1位
『まぐまぐメルマガ大賞 2005』	ビジネス・キャリア部門	第3位

習慣1 熱意を持つ

1-1 熱心にやる

- ・熱心にやればやるだけ成功するのが事業というものでしょう。
だから、成功しないというのは、
本当の熱心さがまだ足りないということではないでしょうか。

「[人を活かす経営](#)」松下幸之助, PHP研究所

- 生きてると、いろいろ困難なことに会うことも少なくないと思います。
ときには、どうしてうまくいかないのか、もうやめてしまおうか、
と思うこともあるでしょう。
- そうした場合に、素直にその困難な状況の原因を考えてみます。
そうすると、原因は、社会環境、運命にあるのかもしれませんが。
しかし、たいていの場合は、原因は自分自身にあることのほうが
多いのではないのでしょうか。
- ですから、自分に行動でより良くできるものがあれば、改めてみる。
それでも、だめなら、また違ったことをより良いものに変えてみる。
そのように、熱心に反省と改善を繰り返すことにより、
道は開けていくものではないのでしょうか。

- ・松下は熱意のある人を可愛がりました。(p215)

「[「松下幸之助」運をひらく言葉](#)」谷口全平、PHP研究所

1-2 なすべきことをなす

・松下翁が一度だけ私たち塾生に立腹された・・・礼状を書くことを失念して
しまったのである。松下翁はそのことに触れ、「礼状一本書けんようでは、
天下のことはできんな」とおっしゃったらしい。(p256)

「[松下幸之助翁82の教え](#)」小田 全宏、小学館

■読んで理解するというのと、実際に行動するというには
大きな差があります。

たとえば、「チェックリスト」を作っても、
実際にそのチェックリストの項目を実施しなければ意味がないわけです。

■私自身、メールマガジン上で

「前日、蒔いた成功の種」というチェックリストを作っていましたが、
その項目をやり抜くという気持ちが足りなかったようです。

この本で目が覚めました。

・自分が決めたことはどんなことがあってもやる
ということがないかぎり、権威も指導力も生まれてこない (p86)

「[志のみ持参](#)」上甲 晃、致知出版社

1-3 命をかける

- ・第一期生の入塾式の時、松下翁は風邪をひき体調がすぐれなかったが、それを押して登壇された。・・・「今日、私は死ぬ気で来ました。しかしもし、日本に命運があるなら必ず私を継いでくれる人が現れる。そういう人が一人でも出てきたらこの塾を開いた価値がある」(p127)

「[松下幸之助翁82の教え](#)」小田 全宏、小学館

- 松下幸之助は、ある時、事業がうまくいっていないと相談に来た人に、「あなたは血の小便を流したことがあるか」と聞いたといひます。

- 一生懸命にやっているというけれど、本当の意味での一生懸命なのか。厳しい言葉ですが、松下幸之助はその人がこのことに気付いてくれることを願ったのでしょう。

さらに松下幸之助は、こういうことも言っています。

「不思議なものですが、人間、死ぬ気でやってもなぜか死にませんな。」

- ・よく人は「私は本気でやっている」「真剣に取り組んでいるのに理解してもらえない」という言葉を口にする。だが、結果の出ない本気や真剣さは本気でやっているとは言えない。(p127)

「[想うことが思うようになる努力](#)」鳥羽 博道、プレジデント社

1-4 情熱を持つ

- ・できるだけ質問を受けることにしていたんや・・・
「そんな時、パッと手を挙げる従業員の名前を覚えておく」
「覚えてどうなさるんですか」
「昇格や」
「えっ・・・(p85)」

「[そう考えると楽ですねー松下幸之助との日々](#)」 岩井 虔、PHP研究所

■松下幸之助は、ただ頭の良い人は使いませんでした。
頭の良い人は、事業を作ることもあるが、
潰すことさえあると言っています。

■では、松下幸之助がどういう人を用いたかといえば、
「熱意」のある人でした。

若干の欠点はあるかもしれませんが、
仕事に熱意を持って取り組む人を抜擢していたのです。

- ・熱意がこもると、ことばの節々に激烈さが加わるかもしれません。
しかし、それは真剣なもののあらわれである、
と、よく理解していただきたいのです。(p41)

「[わが経営を語る](#)」 松下幸之助、PHP研究所

習慣2 人を育てる

2-1 言い続ける

・松下幸之助さんは、「松下電器はものをつくる会社ではなく、人を育てる会社です」という名言を残したが、その松下さんでさえ「人材教育というのは、夏の芝生の雑草取りに似ている」といわれている。(p248)

「[会社が放り出したい人1億積んでもほしい人](#)」堀 紘一、PHP研究所

■「いくら言っても、言うことを聞かない」ということがあります。
確かに、何度言っても修正できない人が多いのも事実でしょう。

■しかし、次に言ってみた後に、10回言った後に・・・
相手は言うことを理解し、行動してくれるかもしれません。

組織を率いる人は、人を信じて
ひたすら言い続けるしかないのでしょう。

・命じたからには、これを追求しなければならぬ。
どこまでもトコトン追求しなければならぬ。
それが命じた者の責任ある態度というものであろう。(p189)

「[道をひらく](#)」松下 幸之助、PHP研究所

2-2 叱る

・私情にかられてのそれ（叱る）はいけないけれども、
ものの道理にはずれたことをした人には真剣に叱る、
それは人情を超えた、人間としての大切なつとめの一つではないだろうか。
（松下幸之助）

「[叱り叱られる記](#)」後藤清一、日本実業出版社

■松下幸之助は、瞬間湯沸かし器と言われるくらい、
突然、激怒することがあったようです。
ただし、そこには明確な基準がありました。

■それは、方針で叱るということです。

自分の方針を示し、方針に沿って成功したら「褒め」、
失敗したら「励まし」、
方針からはずれたら真剣に「叱っ」ています。
そして、方針からはずれて成功したら「無視」です。

・叱るときには、本気で叱らんと部下は可哀想やで。
策でもって叱ってはあかんよ。
けど、いつでも、人間は誰でも偉大な存在であるという考えを
根底に持っておらんとね（松下幸之助）

「[成功の法則](#)」江口克彦、PHP研究所

2-3 部下を守る

みんなの前で褒めろ、二人きりのときに叱れ

「[オヤジの知恵](#)」早坂茂三、集英社

■この言葉を読んで元三洋電機副社長の後藤清一氏と、
上司である松下幸之助のエピソードを思い出しました。

■後藤氏は二十三歳にして工場の責任者に抜擢され、ハッスルしすぎて、従業員を酷使。
その結果、従業員から総スカンをくらいます。
さらに次の工場でも同じように従業員と険悪な雰囲気。

これにはさすがの松下幸之助も激怒し、現地に飛び、
迎えにきた後藤氏に怒声を浴びせます。
「一度ならず二度までも・・・・・・・・！」

■ところが、工場に着き、工場の従業員の前で松下幸之助は次のように諭すのです。
「後藤君は仕事熱心なんや。そのあまりつい無理もいう。
彼のいいところを見てやってくれ。彼にも悪いところは改めてもらう。」

さきほどまで松下幸之助に怒鳴られていた後藤氏は、
胸に迫るものがあったと言っています。
こう言われれば、だれでも感極まります。
恐るべし松下幸之助。
彼はこの知恵を自然に使っていたのです。

習慣3 自然の理を知る

3-1 与える側に立つ

- ・世間は誰ひとりとしてきみの成功を邪魔したりせんよ。
やれないというのは、外部の事情というよりも、
自分自身に原因があるものなんや。(松下幸之助)

「[成功の法則](#)」江口克彦、PHP 研究所

■世の中には、大きな勘違いがよくあります。

例えば、「この世界は間違っている。だめだ。世界を変えたい」
と思っている人がいるとします。

しかし、何も変らないはずです。

・・・まず、自分が変らなくてはならないからです。

■同じように、「お金がほしい、どうすれば儲かるだろう」
と思っている人がいるとします。

しかし、儲からないと思います。

・・・まず利益を与えなくてはならないからです。

- ・松下幸之助さんは、「世の中に与えた10分の一のものが、
自分に利益としてかえってくる」と言われたそうです。(p49)

「[90日で鬼のように儲けるブログ術](#)」林 夏樹、中経出版

3-2 成功するまで続ける

- ・人間は、行きづまるということは絶対にはないのです。
行きづまるということは、自分が「行きづまった」と思うだけのことです。
自分で「行きづまった」と解釈して、はなはだしい人は自殺するわけです。
そんなもったいないことだけはしないでください。(p219)

「[君に志はあるか—松下政経塾 塾長問答集](#)」松下幸之助、PHP研究所

- 松下幸之助が私財70億円を投じて設立した松下政経塾。
その松下政経塾の『五誓』のはじめに次のような言葉があります。

常に志を抱きつつ懸命に為すべきを為すならば、
いかなる困難に出会うとも道は必ず開けてくる。
成功の要諦は、成功するまで続けることにある。

- 成功の秘訣というものは、西欧においても日本においても同じであり、
場所・時代を超越して、
自然の法則のように共通のものがあるようです。

- ・最初の挑戦が失敗しても、前進を続けよう。
二回、三回、四回、五回、六回、そして七回と挑戦を繰り返そう。
そうすれば必ず、障害の城壁が崩れ落ちる(ロバート・シュラー)(p105)

「[マーフィーの成功法則](#)」謝世輝、三笠書房

3-3 感謝する

- ・一つは、根源に対する感謝や。今自分がここに生きているということも根源の力のおかげやからね。もう一つは、自分が何にもとらわれない素直な心で、自然の理に従っているかどうかを反省しているのや。
(松下幸之助) (p43)

「[松下幸之助 運をひらく言葉](#)」 谷口全平、PHP 研究所

- 感謝の心を持つ人は、
自分の使命を持つことができると
著者は言います。

逆に言うと、傲慢になった人は、
自分の使命がわからなくなるということです。

- 松下幸之助は、代理店との宴会では下座に座ったそうです。
そうしたところに、成功の秘訣があるのかもしれない。

- ・今世の使命は何か？自己犠牲ができない人は、
なかなか今世の自分の使命を見出さないままで
終わることになります。下座に座ると感謝の心が出てきます。(p55)

「[繁栄の法則](#)」 北川 八郎、致知出版社

習慣4 人を動かす

4-1 仕事を任せる

幸之助さんは、人間は厳しく要求されることによって進歩向上がある、甘やかされていたのではどうしても勉強も努力もしなくなる。厳しい要求を与えてやるのが本当の親切だということです。

「[松下幸之助の人の動かし方](#)」藤井 行夫、三笠書房

- 松下幸之助は、仕事のスタンスとして、あるべき姿を示して、仕事を任せたならば、それ以後は、「任して、任さず」という表現を使っていました。
- つまり、仕事を部下に任せて、責任を持ってやってもらうことは非常に大切ですが、決してすべてを任せるのではなく、しっかり活動を見守って、時々チェックを怠らないということです。

・こまかく的確な指示を出すと、部下は育たなくなる。自分で考えることをしなくなる。自分で考える部下を育てたいなら、「考える余地のある指示」を出すことだ。(p29)

▼引用は、この本からです。

「[パワーコーチング](#)」松本 幸夫、成美堂出版

4-2 質問する

- ・何か社員に頼むとき、「このようにしたいんやが、君どう思う」というような頼み方をしていました。(p121)

「[松下幸之助 運をひらく言葉](#)」谷口全平、PHP研究所

- 松下幸之助は、部下に対して「こういう製品を作れ！」というのではなく、他者の製品を持って、「これはいくらくらいで作れるのだろうか？」と若い人に質問していたと言います。

つまり、質問することで、その製品に非常に興味を持っており、製品化や開発の意思を部下にほのめかすのです。

- 松下電器では、松下幸之助がそうした質問をしたときには、至急調べて、上司にも報告することになっていたというのですから、松下幸之助の人を動かすテクニックの定番だったのでしょう。

- ・上司がおすすめの本を紹介して「あの本読んだ？」と言ってあげるんです。(p174)

「[デキる上司](#)」白濁 敏朗、中経出版

習慣5 使命感を持つ

5-1 使命を知る

■大正の終わり、事業で成功した松下幸之助は、
当時数少ないパルカーという外国製自動車を購入し、
乗り回すまでになりました。

ところが、すべてが満たされてみると、
どうも仕事に力が入らない。
松下幸之助は小成功病というスランプに陥ったのです。

・今まで一所懸命働いてきたけども、なんとなく自分の思うことが
全部実現していくと力が入らんですわ（松下幸之助）(p35)

「志を教える」上甲 晃、致知出版社

■そうしたとき、松下幸之助は知り合いから、
天理教の本部へ行くことを勧められました。

そして実際に天理教の本部に行ってみると、そこでは無給でありながら、
多くの人が生き生きと仕事をしているのです。

松下幸之助は驚きました。

「私がお金を払って従業員に仕事をしてもらっているのに、
仕事は苦勞することばかりである。
それに対して、こちらは無給なのに、生き生きと仕事をしている。
この違いはどこにあるのだろうか？」

■そして、松下幸之助に、ある考えがひらめいたのです。

そうか！あの人たちの仕事には、崇高なる使命がある。
人間は、崇高な使命を持てば、それに向かって熱心に働くのである。
はたして、自分の事業に、崇高な使命はあるのか・・・。

そして、松下幸之助は、幹部社員を集めて、自分が考えた使命を
発表し、その日を松下電器の新たな創業記念日とします。

・「松下電器はこれから二百五十年かけて世界から貧乏を追放する」(p41)

「志を教える」上甲 晃、致知出版社

■それから1000人程度の中小企業であった
松下電器の業績は驚くほど上昇し、
今の松下グループにまで成長していったのです。

・自分の適性に従って最善に生きる。単なる名利にとらわれず、
あなたの、ほんとうの人生を生き抜く——そうして生き抜きえたひとが、
つまり人生の成功者だとわたしは信じています。(p104)

「若さに贈る」松下 幸之助、PHP研究所

5-2 長期目標を持つ

- ・松下幸之助はこう言いました。「我々が今、目にしているすべてはこれから百年もたん」と。・・・次の百年で、我々が目にしているすべてをやり変えないといけない。これだけでも膨大な仕事がある。・・・国家百年の大計に立てば、仕事は無限にわいてくる。(p50)

「[続・志のみ持参](#)」上甲 晃、致知出版社

- 仕事においては、いわゆる長期計画というものをつくり、それから年間計画を作っている会社が多いのではないのでしょうか。

- そして、そうした年間計画から、月間、毎日の活動に細分化されて、仕事が遂行されていくのですが、

実際に現場では、毎年同じような流れで業務が進んでいくという形がほとんどではないのでしょうか。

- もし、そのような日々の業務に忙殺されるなかでも、自分なりにより遠い将来を考えて仕事をする事ができるならば、

日々の仕事の中に、長期的な意味合いを見つけたり、長期的な視点に立った判断ができるようになるのではないのでしょうか。

- ・未来は人がこうありたいと願うことでより確かなものになると思うなあ。(松下幸之助) (p2)

「[松下幸之助翁82の教え](#)」小田 全宏、小学館

5-3 私心を捨てる

- ・一将功成って万骨枯れるというのが世の習いです。ところが、ここが大事なところですが、「一将死して万骨を生かす」ということも、日本の伝統としてあるわけです。(p125)

「[君に志はあるか—松下政経塾 塾長問答集](#)」松下幸之助、PHP研究所

- 会社というものはトップが変われば、劇的に変ることがあります。

これは、いかにトップの影響力が大きく責任が重いということを示しているのでしょう。

- つまり、人というものは常に上司を観察しているのであって、上司が一生懸命に仕事に打ち込んでいれば「この人は偉いな。私もお手伝いしなくては・・・」と思うものなのではないでしょうか。

- ・会社の社長でもね、私心があったらあきませんな。・・・私は、私心を持たないように、『私』というものを忘れないかん、ということを終始自分で言うて聞かしてるんですよ。会社というものは天下の預かり物や。(松下幸之助)(p171)

「[松下幸之助翁82の教え](#)」小田 全宏、小学館

習慣6 組織を動かす

6-1 現場に学ぶ

- ・塩の辛さ、砂糖の甘さというものは、何十回、何百回教えられても、ほんとうにはわからんやろ。
なめてみて、初めてわかるものや（松下幸之助）

「[成功の法則](#)」江口克彦、PHP研究所

■松下幸之助は、「まず汗を出せ。汗の中から知恵を出せ。」と言いました。

■松下幸之助の言葉も、今日の言葉も、
何でも手っ取り早くやろうとする質（たち）の私には、とても痛い一言です。

■何事も一生懸命やってみる。苦労してみる。
そうやってこそ、本当に学ぶべきことが見えてくるし、
本当の知恵が生まれるということなのでしょう。

- ・社会の本当の姿を学ぶには、本の中だけではまったく足らんで。
本はあくまで空論やな。現実はずっと違うな。君らはまずガード下に行って
靴磨きをすることや。どうしたら儲かるか考えてみ。
そしていろいろ工夫するんや。
そして靴磨きから人を見てみ。いろいろ見えるで。（松下幸之助）（p70）

「[松下幸之助翁82の教え](#)」小田 全宏、小学館

6-2 衆知を集める

・素直な心というのは、だれに対しても何事に対しても、謙虚に耳を傾ける心である (p34)

「[素直な心になるために](#)」松下 幸之助、PHP研究所

■松下幸之助は、常に衆知を集めることの大切さを語っています。

そのために、自分の中に答えを持っていても、質問します。
自分の考えを言うときも、「私はこう考えるが、君はどう思うか？」と質問するわけです。

■ただし実際には、部下の意見を聞いても、それを採用することは少なかったようです。

意見は聞くけれども、最終的には自分が責任を持って決定していたということです。

・衆知を集めないというのは、言ってみれば、自分の財産は自分が持っている時だけしかないと考えている人と同じやね。少しひらけた人なら・・・全世界は自分のものだと思っている。しかし全部自分で持っているのはめんどうだから預けておこう、というようなもんやな。(松下幸之助) (p48)

「[成功の法則](#)」江口克彦、PHP研究所

6-3 掃除の大切さを知る

- ・松下翁は、塾生に向かって四六時中、
「掃除をきちっとしているか」と語りかけていた。
「掃除が完全にできない人間に、世の中の掃除などできない」と言うのだ。(p33)

「[松下幸之助翁82の教え](#)」小田 全宏、小学館

- 松下幸之助は、工場においても、松下政経塾においても、掃除の大切さを説いていたといいます。

しかし、なかには「どうして掃除をしなくてはいけないのか？」
「何の意味があるのか」と反発する人がいます。

松下幸之助は、そうした人に対し、
「自分の身の回りの掃除ができない人が、
どうして天下国家の掃除ができるであろうか」
と諭したといいます。

- 松下幸之助は、経営者は「理外の理」を理解しなくてはならないといていましたが、
(掃除) というものの中に、「理外の理」がつまっているように感じます。

- ・二宮尊徳翁の「遠きをはかる者は富み、近きをはかるものは貧す」だと思います。
近きをはかることしかできない経営者は、
「掃除などしている時間があったら、商品売ってこい」
という発想になってしまうわけです。(鍵山) (p119)

「[幸福への原点回帰](#)」鍵山 秀三郎、塚越 寛、文屋

習慣7 一日一日を大切にす

7-1 日々、進歩する

- ・青年にして大志を抱くこと、まことにけっこうですが、しかしそれを達するには、その日その日の仕事を大事にすることによって、そこに一步一步の進歩というものが積み上げられていく。それがついに大きな仕事となってくる。(松下幸之助) (p91)

「[成功の法則](#)」江口 克彦、PHP研究所

■大リーグで活躍しているイチローのコメントを思い出しました。

「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところに行く
ただひとつの道だと思う」

■小学生の頃から、毎日、バッティングセンターで打撃練習をした。

そうした積み重ねが、イチローを大リーグという
大舞台に行かせてくれたということなのでしょう。

- ・紙一重の差にすぎなくても、日々、謙虚に自己反省し、改善の努力をした会社と、しなかった会社とでは、長い年月の間に大きな差ができるというわけである。(p187)

「[松下幸之助とその社員は逆境をいかに乗り越えたか](#)」唐津 一、PHP研究所

7-2 反省する

松下幸之助は、一日の終わり、布団に入って寝る前の一時間はその日の反省に当てよとよく言っていた。

「[成功の法則](#)」江口克彦、PHP研究所

■松下幸之助は不眠症ぎみだったといいます。睡眠時間は4時間程度。

これは多分、布団に入ってから、その日のこと、経営のことを考えていたからでしょう。そのため、部下には夜中でも松下から電話がかかってきたといいます。

■私も布団に入ってから一日の反省をしますが、一時間も考えることはできません。

まだ、真剣さが足りないようです。

・やはり日々の自分を反省してみることが大切ではないでしょうか。
「きょう一日自分は素直な心で人に接し、
物事をやっただろうか。あのとき自分は、・・・(p172)

「[素直な心になるために](#)」松下 幸之助、PHP研究所

松下幸之助の書籍一覧表

これまで私が読んだ「松下幸之助関係の書籍」とメルマガでの「本の評価」の一覧表を作りました。本のタイトルのリンク先は、メールマガジンの書評になっていますので、購入する際の参考としてください。

書籍名	【私の評価】
「人を見る眼 仕事を見る眼 松下幸之助エピソード集」 PHP研究所	★★★★★96点
「指導者の条件」松下幸之助	★★★★★95点
「松翁論語」 松下幸之助（述）、江口克彦（記）	★★★★★95点
「人生心得帳」松下幸之助	★★★★★94点
「続・志のみ持参」上甲 晃、致知出版社	★★★★★94点
「一日一話」PHP研究所（編）	★★★★★94点
「社長なる人に知っておいてほしいこと」松下 幸之助	★★★★★93点
「経営心得帖」松下幸之助、PHP研究所	★★★★★93点
「実践経営哲学」松下幸之助	★★★★★93点
「志のみ持参」上甲 晃、致知出版社	★★★★★93点
「成功の法則」江口 克彦、PHP研究所	★★★★★93点
「松下幸之助翁82の教え」小田 全宏、小学館	★★★★★93点
「松下幸之助の見方・考え方」PHP研究所	★★★★☆89点
「そう考えると楽ですねー松下幸之助との日々」岩井 虔、PHP研究所	★★★★☆89点
「若さに贈る」松下 幸之助、PHP研究所	★★★★☆89点
「道をひらく」松下 幸之助、PHP研究所	★★★★☆89点
「志を教える」上甲 晃、致知出版社	★★★★☆89点
「リーダーになる人に知っておいてほしいこと」松下 幸之助	★★★★☆88点
「経営者の教科書」江口 克彦、PHP研究所	★★★★☆88点
「叱り叱られの記」後藤清一、日本実業出版社	★★★★☆87点
「「松下幸之助」運をひらく言葉」谷口全平、PHP研究所	★★★★☆86点
「人を導く」江口 克彦	★★★★☆86点
「経営のコツこなりと気づいた価値は百万両」松下 幸之助	★★★★☆85点
「商売心得帳」松下幸之助	★★★★☆84点
「同行二人 松下幸之助と歩む旅」北 康利	★★★★☆84点

最後に

この無料レポートを作り始めて、もう三ヶ月がたちました。毎日メールマガジンを発行しているので、時間がなかったと言い訳はできるのですが、やはりしっかりしたものを発行したいという思いが強く、安易に発行することができませんでした。やはり、偉大な松下幸之助さんがテーマですから、手を抜くことはできません。

こうして無料レポートを読み返してみると、自分と松下幸之助の差というものが見えてきたような気がします。「使命感を持つ」「なすべきことをなす」「反省する」「成功するまであきらめない」こうした当たり前のことを実直に実行する（実行力）です。

結局、それが難しいのだといえればそれまでですが、そこにどれだけ自分の執念を持ち、打ち込むことができるのかが、成功の大きさに比例するように思います。

こんなまじめな本書を最後までお目通しいただき、本当にありがとうございました♪

平成20年4月吉日

平成22年3月修正

■その他の「本のソムリエ」の無料レポート

無料小冊子「[【本のソムリエ流】夢をかなえる一日一冊手帳術](#)」

無料小冊子「[一日一冊読みながら、メルマガを毎日発行する私の方法](#)」

無料小冊子「[部下道～仕事をワクワクにする「驚き」と「感動」の仕事術](#)」

※無料メールマガジン「1分間書評！【一日一冊：人生の智慧】」

(登録) → <http://www.mag2.com/m/0000094236.htm>

発行部数 42,000 部

『まぐまぐメルマガ大賞 2007』 ニュース・情報部門 第2位

『まぐまぐメルマガ大賞 2006』 ビジネス・キャリア部門 第1位

『まぐまぐメルマガ大賞 2005』 ビジネス・キャリア部門 第3位